

帰国報告書

齋藤 翔太

2/16/2015

私は、2014年9月から2015年1月まで Imperial College London に工学系研究科の交換留学の枠組みを使って滞在した。以下にその模様を報告する。

0 準備

私は、2014年2月くらいから準備を始めた。準備することは、ホストの先生を決める事と、英語の準備をすることの2つに集約されるように思う。今回私は英語のスコアはもともと大学院入試に使った際のもので規定スコアを超えていたため、特に準備はしなかった。ホストの先生は研究室の先生に紹介していただいた。国際交流室に応募書類を出した後は、英語の面接（特に英語に不安が無ければ世間話程度で終わる）を経て、東大側から推薦されることが決まる。その後、Imperial College London のウェブサイトにて応募する。

1 渡航まで

私が滞在した当時は6ヶ月未満の滞在の場合、SVV という空港で取れる種類のビザで滞在できるため、渡航までの準備は特にすることがない（制度がよく変わるのでその都度チェックされたい）。ただし、SVV を取るために、Imperial College から受け入れ許可が必要なため、抜かり無くその原本を手に入れる事が必要である。他に、銀行口座の残高証明などを要求される場合があるらしいので、準備しておいたほうがよいと思う。必要であれば、海外留学保険などを探すとよい。

2 生活を始めるまで

イギリスにおいては、6ヶ月未満であれば滞在するのにあたり特に役所に出す書類などは無い。すべき事は家を探すことと、必要であれば銀行口座を作る事である。6ヶ月未満の滞在であると、多くの家は6ヶ月が最小期間であるため探すのが少し難しい。Zoopla や gumtree などの現地のウェブサイトや、mixb という在英邦人用の情報交換サイトで探す人が多い。私は gumtree で探し、Kilburn という駅から徒歩30秒くらいの場所に住んだが、大家の都合で残り一ヶ月で追い出され、Airbnb という主に観光客向けの宿探しウェブサイトで長期滞在用のフラットを見つけ、Canary Wharf という場所に引っ越した。銀行口座は、住む場所を決めてから、大学で bank letter というものを発行してもらおうと作れる。

3 生活

研究室でひたすら働いていたため、特筆する事はない。必要であれば、英語の授業が取れる、また、language partner という、英語を母国語とした日本語を習いたい人と教え合うシステムを利用する事ができる。英語が出来ずに、少し心苦しい思いをしていた人もいたため、不安な人は渡航前に訓練しておくるとよい。また、イギリス英語に不慣れな人は、BBCなどで訓練しておくるとよい。中国人が多いため、中国語が話せると生活がずいぶん楽になるように思えた。

4 旅行

私は研究で忙しかったため、大陸ヨーロッパに友人が多かったにも関わらずどこにも行く時間が取れなかったが、イギリス国内、大陸ヨーロッパやアイスランドへ行く人が多いように思えた。

5 まとめ

Imperial College Londonでの滞在スキームはよく出来ており、特にトラブルもなく過ごす事ができた。もしイギリスでの滞在を考えているなら、ぜひ応募する事をお勧めしたい。最後に、受け入れてくださったD. P. Mandic先生に感謝を申し上げたい。